



東京・竹芝橋から南に千
唯一の交通手段である「お
がさわら丸」で二十五時間半揺
られると、小笠原諸島父島にた
どり着きます。私は、この四月
から初の離島勤務地として小笠
原村診療所に派遣されました。
都立病院での三年間の研修の
間は、外来の経験もほとんどな
く、不安いっぱい島にやって
きました。着任早々、前任者か
らの引き継ぎも終わらないうち
に、患者さんを緊急搬送する事
態に遭遇しました。

搬送は自衛隊機

緊急搬送で内地(島から見た
都内などのこと)へ搬送するに
は、自衛隊に協力を要請し飛行
艇で搬送することになります。
千離れているため、飛行機で

患者と向き合っ日常大切に

も片道三時間かかり、手続きや
救急車での移動時間を考える
と、後方病院収容まで十時間近
くかかります。
一刻を争う事態であれば、ど
の時点で搬送を判断するかとい

う見極めが非常に重要になって
きます。しかし、ドラマと違い
実際にはそういった緊急事態は
めったになく、一人一人の患者
さんとしつかり向き合っていく
日常診療こそが大事なことに、
日々気付かされています。

島はベビーブーム

父島は高齢化率が10・3%と
低く、比較的若い人の多い島で
す。小笠原村診療所は、島で唯
一の医療機関ですので、すべて
の科の患者さんを診ることにな
ります。

当然、小児や妊婦さんを診る
機会が多くあります。今年は、
島には常に十人以上妊婦さんが
いて、例年以上のベビーブーム
になっています。産婦人科医で
はない自分にとって、妊婦健診
はまだまだ緊張しますが、成長
していく胎児を見守っている
ことはとても貴重な経験になっ
ています。

島では出産ができないため内
地へ行ってもらっていますが、
紹介先から無事に産まれたとの
手紙をもらって、わが事よう
にうれしくなります。

観光シーズンになれば、多い
時には一便で千人近く来島する
こともありま。出発前から風
邪気味だった方や到着してすぐ
海岸でけがをしてしまった方の
受診が多くなります。「もう海
で遊ばなくなる」。患者さんは
そう思って受診されますが「消
毒しない」「ガーゼをしない」「傷
を乾かさない」という湿潤療法
で治療するので、その日のうち
でも海に入れるようになりま
す。そのことを話すと、みな喜
びます。

せっかく来てもらった小笠原
を満喫してもらえような治療
を目指しています。

若い人が多いこの島には、
酒、たばこが大好きな人が大勢
います。外来では折に触れて、
禁煙、節酒を指導しています
が、なかなか効果があがってき
ません。

ようやく島での診療に慣れて
きたので、禁煙を中心とした、
病気になるない習慣作りに力を
入れていくことが今後の課題と
考えています。

(次回予定は福島県)

ほりけ ひでゆき 堀家 英之 26期生、2003年卒



妊婦健診での超音波検査。左は見学の自治医大生

小笠原村診療所

【私の勤務地】 父島は東京から南へ約1000^{キロ}離
れた人口約1900人の島。診療所は島内唯一の医療機
関で、スタッフとして医師2人、歯科医師1人、看
護師4人、助産師2人、歯科衛生士1人、歯科技工
士1人、事務職員6人が勤務する11床の有床診療所。